

# 島根教神協会報

発行日/令和6年11月15日

発行者/島根県教育関係神職協議会

第43号

島根県神社庁長

角河 和幸



島根県神社庁長の角河でございます。この度、廣江会長様より広報誌への寄稿を依頼され、テーマは自由と言うことでしたので、皆様方への御挨拶として寄稿させていただきます。

常日頃、皆様方には神社庁の運営や諸施策に対し格別なる御理解と御協力を頂き、当庁指定団体としてご活躍いただいておりますことに厚く御礼を申し上げますと共に、会員の皆様方には教育関係のお仕事に携わりながら、一方神職として神明に奉仕されておりますこと、誠に頭

の下がる思いであり、心から敬意を表する次第であります。

私が存じております教神協の始まりは、戦後、日本人の価値観が大きく変わり、戦前の日本の教育を悪とし、先人の考え方や道徳観をも否定される風潮のなか、それに毅然として意を唱え、戦後の偏向した教育を是正しなければ真の日本国の復興はあり得ないという信念のもとに、神明奉仕の傍ら教育に携わっておられた神職の皆様が決起され、その活動を今日まで続けておられるということと承知しております。日本の大地に根

られ、津和野藩校「養老館」の国学教師として従事し、福羽美静氏を始め、明治教育の先覚者を数多く指導し、神道改革に尽力されました。

を張り、国の基幹である神社神道の精神を正しく理解し、次世代に繋げてゆくことを使命として活動しておられる姿を拝し、身の引き締まる思いであります。

岡先生が神職の幼童教育の為に記した「神家童子訓」の中で「神職たる者「平生堪忍を以て心となし、柔和をもつて体となし、正直を以て道となし、剛毅を以て行となし、他人の悪を尤とせず、吾身の善を挙げせず人の薄情を憤るべからず」とあり、この子供に対する教育の心が現代でも指針となるものと思っております。

結びにあたり、皆様方には今後、神道精神に根ざした真の日本人をより多く育てて戴き、益々健勝にてご活躍されますことを祈念致し挨拶とさせていただきます。

私の地元である津和野においても、明治維新の魁として神道教育に奔走した岡熊臣先生がお



## 現職教員等研修会に 参加して

松江支部 廣江 直澄

六月二十二日（土）に本社本庁の地下1階会議室において対面形式とウェブを使用しての遠隔参加者に分かれて研修会は開催された。約40名参加の研修会だったがコロナ感染症の影響で始まったウェブ形式の参加形態は、有効な方法として参加者増の要因となった。

開講式を終え研修会が始まった。開催趣旨は全国大会のテーマ「神道精神に根ざした真の日本人を育てるために」を受けて、研修内容は3部構成で講演・実践報告・意見交換という形であった。

講演は皇學館大學教授板井正斉先生の「神社と学校・地域の連携―神道教化概論の教育実践より」で報告された内容は、新しい共同体を形成する時に神社

がその精神的紐帯として機能する可能性は充分にあり、神道教化の上でも神社の目標と地域の目標と同化するために、活動や交流を増やすことであると提言があった。その具体例として、

若い人を意識した情報発信をSNSやメディア媒体を使って行う。社会教育との関わりで公民館活動などを活用する。文化を継承することで郷土に視線を向けさせるために大学生に小中高生の活動をサポートさせるなどの方法が報告された。

実践報告Ⅰは富山県教神協会長山田隆芳先生の「小学生作文コンクールについて」で、スライドで表彰式の様子や受賞作品の作文の原文が示され、充実している活動内容が窺えた。小学生が地元のお宮さんやお祭りを体験して感じたことを文章にして、さらには地域を愛する心や文化遺産を保存する心を涵養するという目標は一定の成果を上

げてきたようだ。残念ながら今年度は実施を見送ることとなったとの報告に早期の復活を期待したい。

実践報告Ⅱは佐賀県教神協会長山口良弥先生の「神道を生かす教育」についての報告は、実際の授業の様子が示され教科書の内容に触れながら神社、神道、皇室など日本の文化を伝える取り組みが紹介された。間違っていないと言う信念で展開される授業に対して、学校や教師仲間からの反応は「特別な干渉はない」との話だった。あまりにも宗教色を排除すると情操教育が形骸化するのではと危惧した。

これらの報告は、夏の全国大会へ繋がるものと感じた。

## 全国大会に参加して

出雲支部 山崎 寧子

第六十三回全国教育関係神職

協議会全国大会・中央研修会は、香川県高松市内で、八月八日・九日に開催され、会員約70名（島根県からは廣江会長、山崎の2名）が参加した。開会式典などは、ホテルパールガーデンで行われ、研修会は会場を市内の研修施設サン・イレブン高松に移して行われた。

一日目

### ①開会式

神宮遙拝、国歌斉唱、教育勅語奉読、敬神生活の綱領、全教神協綱領の唱和と続いた。

實来会長の式辞では、社頭や教育現場で苦労もあると思うが日本は如何に生き残って行くか、日本・教育のために何ができるか考えたい。「神道精神に根ざした真の日本人を育てる」為に皆で力を合わせて行きたいと語られた。続いて来賓挨拶

があった。



### ② 総会

令和五年度の事業報告、決算報告、令和六年度の事業計画案、予算案など、いずれも承認された。役員改選では、寶来会長、各副会長留任の他、新役員が決定した。

### ③ 基調講演

國學院大學兼任講師 中澤伸弘氏による「皇室敬慕の念の育成―何を教えるべきか」と題して行われた。旧仮名遣いで表さないと言葉の持つ意味が伝わらない。皇室は、親しみを覚えるも

のではなく、敬慕の念を持つものだ。と話された。



### ④ 分科会

「教育現場のために何ができるか」「神社（社頭）において何ができるか」「氏子・崇敬者のために何ができるか」を主題に各二班ずつ、六班に分かれて話し合った。



二日目

⑤ 正式参拝 石清尾八幡宮

⑥ 記念講演

神道政治連盟首席政策委員 田尾憲男氏による「教育関係神職に期待すること 私のこれまでの体験から」と題して行われた。食料自給率の低下、少子化問題など、危惧することは多い。地域の人々を神社に誘う事の必要性を述べ全教神協の今後の活動に期待を寄せられた。



⑦ 分科会の発表

昨日の分科会での話し合いの内容を六班がそれぞれ発表した。

レポート作成後

⑧ 閉会式

神宮遥拝、会長挨拶、大会宣言、聖寿万歳で幕を閉じた。

⑨ その他

一日目の懇親会では、小笠原流神田夫婦獅子の力強い舞が披露された。



分科会の最中に全員のスマホから一斉に警報音が鳴り、驚かされた。宮崎県を震源とする地震で、揺れなど地震の影響はなかった。

## 中国ブロック研修会に 参加して

松江支部 廣江 直澄

八月二十四日（土）二十五日（日）に鳥取県米子市で開催され、まずは米子市文化ホールで

開講式と研修Ⅰがあった。19名の参加者で「考古学からみた古代の祭祀と信仰」と題して米子市文化観光局文化振興課専門官の中原斉氏の講演があった。興味深い話が続き祭祀遺物は実用品でないもので精神生活に関わるものという指摘は、具体例もあり理解が進んだ。私個人としては、稲吉角田遺跡から出土された土器の高樓建築物の図柄と、出雲大社の高層神殿や山内丸山遺跡の巨大建造物、諏訪の御柱などの関連について聞きたい内容もあった。

宿泊場所の皆生温泉の旅館に移動し、ゆつくり温泉に浸かった後旅館の最上階にある懇親

会場で愉快的な宴が催された。鳥取県教神協会長の岡村先生との会話で、ご本人が新規会員を確保されるためにご苦労された経緯を聞き、敬服するとともに参考になる事柄も聞くことができた。



そして、一興の時を迎え鳥取県の銘酒を中心に「利き酒大会」が行われた。昨年に続き二回目の大会で景品は地元色が出たユニークなものも用意されていた。果たしてこの催し物が定着するかどうか？来年の岡山大会が鍵を握りそうだ。

翌朝、ロビーで出発の時間を待っていると宿泊していた鳥取県内の高校生の姿が見えた。教育現場を離れて日が浅い所為か「学校は始まっているのかな？」「部活動で合宿しているのかな？」「引率の先生は大変だな」などと教育関係者特有の妄想する癖が出てしまった。

正式参拝は大神山神社の里宮で行われた。各県代表による玉串拝礼の後、境内にある大山の奥宮を遙拝する場所にて拝礼をした。社務所に移動して権禰宜さんによる奥宮の遷宮についての説明があった。大山の中腹に位置する大きな御社殿の改修は、難工事が多くご苦労も多いとのことだった。多くの参加者が共感、実感する遷宮事業報告だった。

鳥取県教神協の皆様には大変お世話になり、有意義な研修会を受講できたことに心より感謝申し上げます。



## 鳥根県地方研修会に 参加して

仁多支部 陶山 浩正

令和六年度鳥根県教育関係神職協議会地方研修会が九月七日、松江市大庭町、立正大浜南高校にて開催された。

「神社と地域連携」のテーマの元、その一つの手段としてSNSによる情報発信の方法を学んだ。第一講は、立正大浜南高校教諭であり、同校のeスポーツ部の顧問でもある

畑山友朗氏により「学校教育とeスポーツについて」と題して講義が行われた。同校は島根県のeスポーツ部の先駆けであり、その活動や実績は全国でもトップレベルのものである。eスポーツと聞けば、多くの中高年は、PCゲーム好きが集まり、ワイワイとゲームに興じ、その技を競っている姿をイメージするだろう。実は私も新聞でeスポーツ部の記事を読んだ時、これが高校の部活動となり得るのか、まるで校内にゲームセンターがあるようなものではないかと懐疑的であった。



ところがこれは大きな誤りであり、大変失礼な認識であったと反省せざるを得なかった。彼達は、ゲームプレイヤーであるだけでなく、PC製作、プログラミング、イベントの企画運営、配信、他校や他団体との連携をも積極的に行っている。これは、eスポーツを軸にデジタル技術に精通する人材育成の場であり、立派なキャリア教育ともなっていた。

この第一講を踏まえ、第二講は同校eスポーツ部員の指導の下、会員それぞれが自らがご奉仕する神社の情報をインスタグラムで発信するというものであった。「うちのお宮は特別な神事もない小さなお宮で、かわり映えない写真や情報しかないから長続きしないよ。」と懸念を口にする私に、担当してくれた女子部員から「宮司さんの趣味や好きなことをあげればいいんですよ。時々お宮のこと

を発信した方が長続きしますよ。」とのアドバイスを受けた。それならばということに興味の陶芸の写真にコメントをつけて発信するに至った。



これはこの研修会から二ヶ月経った現在も「宮司の窯日記」と題して続けることが出来ているし、時には他県から神社に対する問い合わせやお参りがあつたりで、今までになく刺激的である。

第一講、二講のまとめとして、第三講は、廣江直澄本県教神協会長から、教神協全国大会、同中国ブロック研修会の報告を兼ねて「神社と地域

連携について」と題する講義が行われた。神社と地域連携については、神社の抱える課題を総代会、町内会、若者グループ等それぞれの組織で共有することが大切であり、その実践においてはあくまで地域を基盤とした取り組みであらねばならない。そしてその実践例として、「小学校とタイアップした作文コンクール」「神主一日体験」「親子参宮」「情報発信（由緒書等）の紙媒体からDX（インスタグラムやX等のSNSを用いたもの）への移行」等が挙げられた。コロナ禍の数年を経て、祭事はコロナ前に戻って来てはいるが、神社や学校現場を取り巻く環境は大きく変容した。デジタル社会化の中で急速に拡散浸透するSNSの功罪を把握しつつ神社の課題解決の一助としての情報発信の重要性を実感した研修会であった。

令和五年度事業報告

- ・六月十七日 現職教員研修会 神社本庁
- ・七月十二日 監査・役員会ビッグハート出雲
- ・七月二十八日、二十九日 全教神協全国大会・中央研修会 福島県郡山市
- ・八月十九日、二十日 島根県教神協総会・中国ブロック研修会 島根県松江市
- ・十一月 島根教神協会報第四十二号発行

令和六年度事業計画

- ・六月二十二日 現職教員研修会 神社本庁
- ・七月八日 監査・役員会 個別指導塾F
- ・八月八日、九日 全教神協全国大会・中央研修会 香川県高松市
- ・八月二十四日、二十五日 中国ブロック研修会 鳥取県米子市
- ・九月七日 島根県教神協総会・研修会 立正大学 浜南高校
- ・十一月 島根教神協会報第四十三号発行

全教神協ホームページ

本会のあゆみ・本会の取り組み  
広報誌などの情報を発信して  
います。是非、ご覧ください。



<https://zksk.jp>

令和七年度事業予告

- ・六月 現職教員研修会
- ・八月五日、六日 全教神協全国大会 兵庫県神戸市
- ・八月 中国ブロック研修会 岡山県

新執行部

理事	理事	理事	理事	理事	理事	監事	監事	事務局	副会長	副会長	会長
青木	塩野	稲田	倉橋	石原	宮永	花田	藤脇	廣江	山崎	陶山	廣江
	清	真			安	真	兼	直	寧	浩	直
淳	明	二	宣	肇	道	宜	三	澄	子	正	澄

役員改選

## 新入会員紹介

三部八幡宮 宮司 糸賀 明広



この度、教神協の末席に参加させていただくことになりました。糸賀明広と申します。よろしくお願いいたします。

学校教員の経験もない私が「本当にいいのだろうか？」と恐縮しておりますが、自己紹介も兼ねて、ここに至る経緯を紹介させていただきます。

こちらに来る以前、私は東京の広告代理店に勤めていたが、プライベートで日本数学検定協会から「数学コーチャー」「数学インストラクター」の資格をいただき、土日に東京の中学校で数学検定対策講習を担当

したり、協会が運営するイベントで親子に算数・数学をコーチングしたり。これらが教育面での活動です。

三年ほど前に、先代宮司に癌が発見され闘病生活に入ったことから、宮司職を継ぐために会社を早期退職し、こちらの妻の実家に単身で移住することになりました。神職として本格的に活動することになったのもこの時からです。

知り合いが誰もいない土地で、全て一から始めなければならず、なかなかうまくいかないことばかりだったのを思い出します。

ある日「島根県は算数・数学の成績が良くない」という新聞記事を読みました。数学コーチャーの資格をとった当時を思い出して「何か役に立ってないかな？」と考え、まずは二年前の

夏休みから、小中学生向けに「算額」を実施することにしました。神社から出題された算数・数学の問題を希望者が解き、解答を奉納するというものです。

今年の算額では、小学生向けの問題は地元中学校の数学担当の教諭に作問してもらいました。参加者には好評だったようです。中学生向けの問題は、数学検定協会のサポートのもと私が作問しました。参加人数が少なかったのは残念でした。

そして今年の四月から、「神社de寺子屋」という塾とも放課後教室とも言える活動を神社拝殿で始めました。少人数ですが、来ている子等はとてもユニーク。私が楽しませてもらっています。

このような活動をいろんなところで話していたら、教神協副会長である山崎さんの耳に入

り、「教神協に入りませんか？」とお誘いいただき、このような拙い文章を披露している次第です。

「数学のレベルが低い国は発展しない」と言われます。個人的には地域レベルでも成立する気がしています。時間がかかることですが、神社の一つの活動として、地域の数学力を上げ、地域の発展に寄与できたらと考えております。

まだまだ神職としても、一住民としても見えていないことがたくさんあります。何卒、皆様からのご指導を賜ればと存じます。



## 会員寄稿

### 「平和教育」の大切さ

仁多支部 石原 道夫

八月末日、松江市湯町の従妹から写真入りのメールが……。それは、松江市内の小学校に通う六年生（外孫・女兒）が夏休み中の宿題・一人一挑戦に「平和への願い」をまとめたというニュースでした。

この八月に山陰中央新報社が取り上げた、平和への願い・次世代に引き継ぐ戦後七十九年という特集、広島や長崎の平和記念式典の模様、県内各地の慰霊碑や終戦の日・十五日の報道は多くの県民の関心呼びましたが、メールによればこの女兒は、修学旅行での広島原爆ドームや原爆資料館で学んだ平和学習を思い出し、平和の関わる新聞記事を切り抜いて貼り付け、下欄

に幼い平和への願いを綴っていました。

『戦争に出たお父さんたちは、自分の子供たちにすぐくすぐく会いたかったんじゃないかなと思います。子供に会えないお父さんがとてもかわいそうです。こんなこと、私はとてもイヤです。戦争はもう二度とやって欲しくないです』

『私と同じ広島の小学校六年生が八月六日の平和記念式典で平和への誓いを朗読していました。私は家族のみんなと話し合いい、戦争はゴメンだとさげびました』

『私の親せきに戦争遺児のおじさんがいます。お父さんがいなくなるなんてとてもかわいし、そのためには平和がぜったいに大切だと思いました』

『おじいさんの話では、戦争で亡くなった兵隊さんたちは、東京の桜の名所である靖国神社にまつられているそうです』な

どなど。

風の便りで、島根県遺族連合会が、国民の一割となった戦争体験者としての自覚の下に「平和の語り部事業」を拡充強化し、孫、曾孫、玄孫たちを始め多くの若者に地域の慰霊碑や戦没者のことを話し、後世に亘って平和の尊さを考えてくれることを活動の大きな柱にしている様子を知りました。そうした取り組みからもこの女兒が自力で宿題に「平和」を据え、先ず数日の新聞を読み、そして切り抜き、的確に自分の思いを綴ったことは正に小学校の「平和教育」のなせる天晴れな成果であり、思わず大きな拍手を送ったという次第です。

## 編集後記

今年のノーベル平和賞は、日本の「被団協」が受賞しました。世界情勢は不安定で、核使用をちらつかせるような報道も有る中、意義のある受賞だと思います。現在、戦争中の国もありますが、一日も早く、世界中が平和に楽しく暮らせるようになる事を願ってやみません。

今年は、新しい試みで、巻頭言を島根県神社庁長にお願いし寄稿していただきました。

お忙しい中、玉稿をお寄せ下さった庁長、会員の先生方に深謝申し上げます。

(山崎 寧子)

